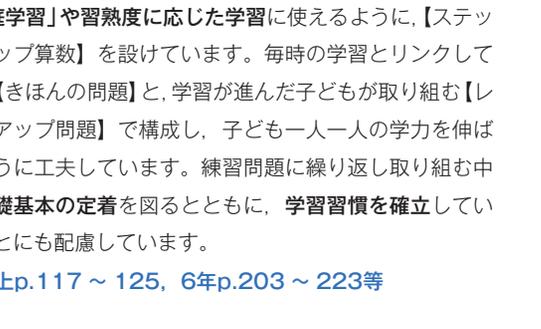
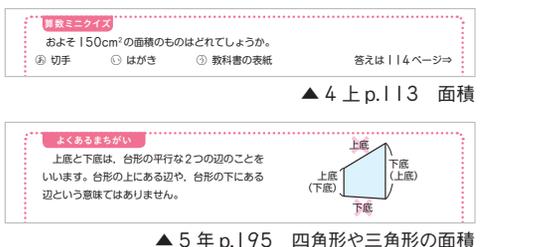
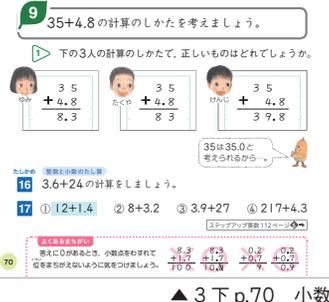
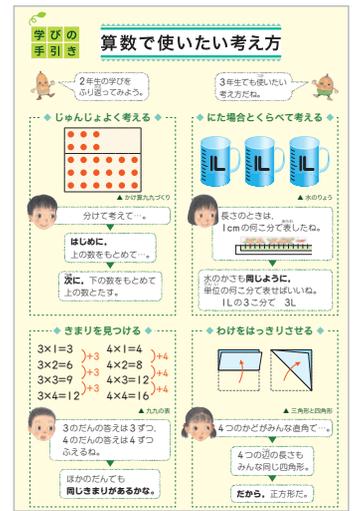


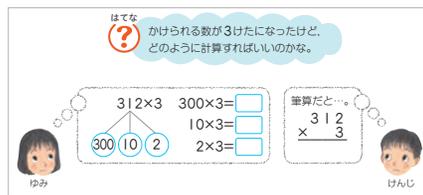
❖ 教育基本法の理念の実現及び算数科の目標達成にあたって、必要な内容が適切に取り扱われているか。

観点	特色	具体的な事例
<p>1. 基礎的・基本的な知識及び技能を身につけることができるように配慮しているか。</p>	<p>① 学びと学びをつなぐことを編集方針の軸とし、問題解決の中で既習事項を繰り返し振り返れるように工夫しています。</p>	<p>● 高学年では、学年1冊の合本にするとともに、前学年までの学習内容をまとめた【学びのマップ】を掲載し、単元からリンクして、わからない箇所があれば子どもが自ら既習事項に戻って確認できるようにしています。</p> <p>➡ 5年p.264～271, 6年p.226～235</p>  <p>▲ 5年 p.13 体積</p> <p>▲ 5年 p.268 学びのマップ</p> <p>● 「コンパスの使い方」「垂直、平行な直線のかき方」など、算数用具を用いた作図のしかたや、【数直線のかき方】(本資料 I-2-④)などを巻末【学びの手引き】にまとめ、指導学年以外でも繰り返し振り返れるようにしています。</p> <p>➡ 2上p.127, 5年p.262～263等</p>  <p>▲ 6年 p.21 対称な図形</p> <p>▲ 6年 p.225 垂直、平行な直線のかき方</p>
<p>② 「毎時の学習」「単元のまとめ」「家庭学習」の各段階で、習熟を図るための練習問題を豊富に設け、基礎基本となる学習内容が確実に定着されるように工夫しています。</p>	<p>● 「毎時の学習」では、学級全体での繰り返し・解決・まとめのあとに、【たしかめ】の問題を位置づけています。学級で練り上げた解決方法を自分の力で再現できるかを、子ども一人一人が確認したうえで、反復練習に取り組みできるようにしています。 ➡ 2年以降 随所</p> <p>● 単元末の【まとめ】では、まず基礎基本となる「知識」を簡潔に整理し、以降の学習で振り返りやすくしています。また、【ちからをのぼそう】で、「技能」面での習熟を図れるようにしています。「考え方」を振り返る4コマ漫画 (本資料 I-5-②) と合わせて、評価の観点に即した単元のまとめができるように工夫しています。 ➡ 2年以降 各単元末</p> <p>● 「家庭学習」や習熟度に応じた学習に使えるように、【ステップアップ算数】を設けています。毎時の学習とリンクしている【きほんの問題】と、学習が進んだ子どもが取り組む【レベルアップ問題】で構成し、子ども一人一人の学力を伸ばすように工夫しています。練習問題に繰り返し取り組む中で基礎基本の定着を図るとともに、学習習慣を確立していくことにも配慮しています。</p> <p>➡ 2上p.117～125, 6年p.203～223等</p>	 <p>▲ 2上 p.122 ステップアップ算数</p>
<p>③ 全国学力・学習状況調査の結果もふまえ、つまずきやすいポイントを意識しながら学習できるように工夫しています。</p>	<p>● つまずきやすい学習内容は丁寧な展開で理解を図るとともに、誤答と正答を比較して考えたり、誤答を修正したりする活動なども取り入れ、理解が確実なものになるように工夫しています。また、コラム【よくあるまちがい】【算数ミニクイズ】などでも、誤答例を具体的に示したり、クイズ形式で示したりして意識化を図っています。</p> <p>➡ 3下p.70, 4上p.113, 5年p.195等</p>	 <p>▲ 4上 p.113 面積</p> <p>▲ 5年 p.195 四角形や三角形の面積</p>  <p>▲ 3下 p.70 小数</p>

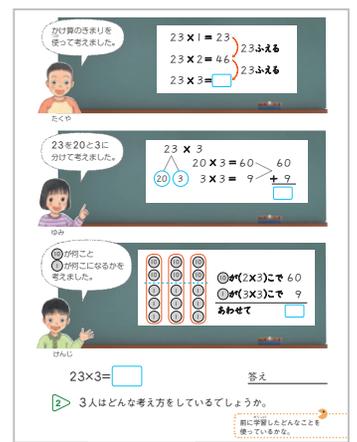
観点	特色	具体的な事例
<p>2. 見通しをもち筋道を立てて考え、表現する能力を育てるよう配慮しているか。</p>	<p>① 数学的な考え方について、具体的な学習場面をとおして、子どもの「言葉」を使って整理するページを設け、以降の学習で意識的・積極的に活用していけるよう工夫しています。</p>	<p>● 学年の始めに、【算数で使いたい考え方】のコーナーを設け、前学年で使った考え方を振り返り、授業で使いたい言葉を学級で共有して学び合いに生かしていけるよう工夫しています。学年段階にも配慮し、中学年では「筋道」「類推」「帰納」「演繹」、高学年では「単純化」「一般化」「統合」「発展」の考え方を取り上げています。</p> <p>➡ 3上p.6, 4上p.6, 5年p.6, 6年p.6</p>
<p>② 子どもの言葉で授業をつくることを大切にしています。日々の授業において、子どもの「問い」を明確にし、見通しをもって主体的な学習活動が行えるよう工夫しています。また、知識・理解のまとめとともに、問題解決で用いた「考え方」のよさをおさえ、以降の学習にも活用していけるよう工夫しています。</p>	<p>● 学習のねらいにせまる子どもの「問い」を【はてな?】のふきだしで明確にし、学級全体で問題意識を共有して解決にあたるよう工夫しています。</p> <p>● 学んだことのよさや考え方のまとめを【なるほど!】のふきだしで示し、知識・理解だけでなく、考え方も伸ばしていけるよう工夫しています。</p> <p>➡ 2上p.45～47, 3下p.9～10, 5年p.133～135等</p>	<p>● 学習のねらいにせまる子どもの「問い」を【はてな?】のふきだしで明確にし、学級全体で問題意識を共有して解決にあたるよう工夫しています。</p> <p>● 学んだことのよさや考え方のまとめを【なるほど!】のふきだしで示し、知識・理解だけでなく、考え方も伸ばしていけるよう工夫しています。</p> <p>➡ 2上p.45～47, 3下p.9～10, 5年p.133～135等</p>
<p>③ 発表・話し合いの場を豊富に取り入れ、実感的な理解が得られるようにしています。練り上げを焦点化するための補助発問も示し、算数科のねらいに即した言語活動が行えるよう工夫しています。</p>	<p>● 言葉、数、式、図、数直線などを用いて発表したり話し合ったりする活動を随所に設けています。黒板の前で発表する姿や、ノートを使って説明する場面を取り入れるなどして、言語活動の様子が具体的にとらえられるよう工夫しています。</p> <p>➡ 3下p.4, 4上p.113, 5年p.33～34等</p>	<p>● 言葉、数、式、図、数直線などを用いて発表したり話し合ったりする活動を随所に設けています。黒板の前で発表する姿や、ノートを使って説明する場面を取り入れるなどして、言語活動の様子が具体的にとらえられるよう工夫しています。</p> <p>➡ 3下p.4, 4上p.113, 5年p.33～34等</p>
<p>④ テープ図(線分図)や数直線、式などを使って考えたり説明したりする能力が、段階的に育てられるよう工夫しています。</p>	<p>● 【たし算とひき算の図】【かけ算とわり算の図】の準単元を設け、テープ図と数直線の見方・かき方、演算決定のときの活用のしかたを指導する時間を設けています。</p> <p>➡ 2上p.72～75, 3上p.120～123</p> <p>また、以降の学年にも【学びの手引き】として同様のページを掲載し、演算決定の場面で繰り返し参照できるようにし、思考・表現の道具として定着するよう工夫しています。</p> <p>➡ 2下p.104, 3下p.117, 5年p.261等</p> <p>● 低学年においても、1年生から計算のしかたを○の図などを使って表現する活動を取り入れ素地を養い、図を用いる能力を段階的に育成するよう工夫しています。</p> <p>➡ 1年p.41, p.98等</p> <p>● 式のよみ方、表し方について、繰り返し扱うことで理解を深め、式を活用する能力を伸ばすよう工夫しています。また、前述のテープ図や数直線の見方・かき方とともに、式と図を結びつけて考えられるようにしています。</p> <p>➡ 1年p.129, p.158, 2下p.7, 3上p.58, 4上p.38等</p>	<p>● 【たし算とひき算の図】【かけ算とわり算の図】の準単元を設け、テープ図と数直線の見方・かき方、演算決定のときの活用のしかたを指導する時間を設けています。</p> <p>➡ 2上p.72～75, 3上p.120～123</p> <p>また、以降の学年にも【学びの手引き】として同様のページを掲載し、演算決定の場面で繰り返し参照できるようにし、思考・表現の道具として定着するよう工夫しています。</p> <p>➡ 2下p.104, 3下p.117, 5年p.261等</p> <p>● 低学年においても、1年生から計算のしかたを○の図などを使って表現する活動を取り入れ素地を養い、図を用いる能力を段階的に育成するよう工夫しています。</p> <p>➡ 1年p.41, p.98等</p> <p>● 式のよみ方、表し方について、繰り返し扱うことで理解を深め、式を活用する能力を伸ばすよう工夫しています。また、前述のテープ図や数直線の見方・かき方とともに、式と図を結びつけて考えられるようにしています。</p> <p>➡ 1年p.129, p.158, 2下p.7, 3上p.58, 4上p.38等</p>
<p>⑤ 自分でノートに書く活動、友だちが書いたノートを読み取る活動を重視し、数学的な思考力・表現力が高められるよう工夫しています。</p>	<p>● 思考力・表現力を育てるうえで、ノートに書く活動を重視しています。自力解決に用いるだけでなく、友だちのノートを互いに見て、良いところを見つける活動も取り入れ、学級全体の学力が向上されるよう工夫しています。</p> <p>➡ 2上p.24～25, 3上p.16～17, 4上p.34～35, 5年p.24～25, 6年p.40～41</p>	<p>● 思考力・表現力を育てるうえで、ノートに書く活動を重視しています。自力解決に用いるだけでなく、友だちのノートを互いに見て、良いところを見つける活動も取り入れ、学級全体の学力が向上されるよう工夫しています。</p> <p>➡ 2上p.24～25, 3上p.16～17, 4上p.34～35, 5年p.24～25, 6年p.40～41</p>



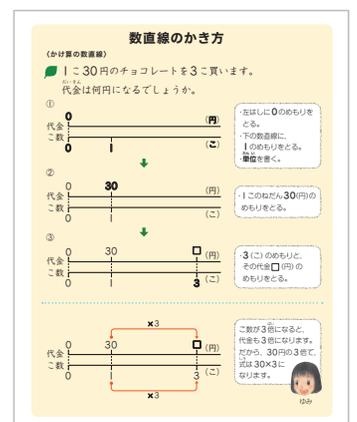
▲ 3上p.6 算数で使いたい考え方



▲ 3下p.9～10 かけ算の筆算(1)

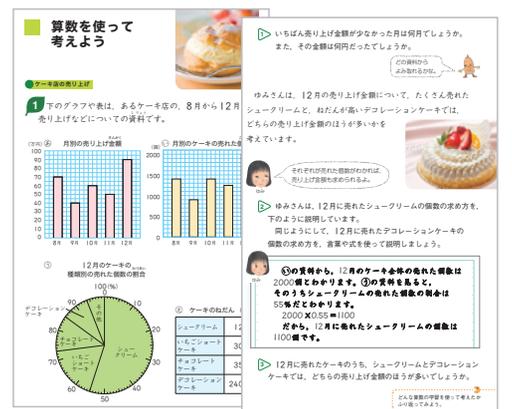


▲ 3下p.4 かけ算の筆算(1)



▲ 3上p.122 かけ算とわり算の図

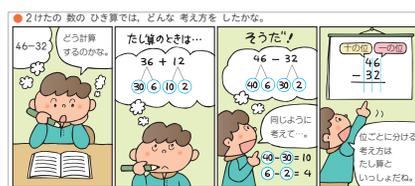
観点	特色	具体的な事例
3. 算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさに気づくことができるように配慮しているか。	①習得・活用・探究の様々な段階において算数的活動を積極的に扱い、教室内の活動だけでなく、教室外の活動も取り入れながら、算数を学び、広げ、深める楽しさが実感できるように工夫しています。	●数量や図形について実感的な理解が得られるように、具体物を数えたり、身のまわりの量を実際に測定したり、形を作ったり分類したりする 作業的・体験的な活動 を豊富に扱っています。 ▶1年p.130～131, 2下p.44, 3下p.44, 4下p.11等 ●発表・話し合い、ノート記述などの 言語活動 を重視し、言葉、数、式、図などの数学的表現を用いながら、自力解決と学び合いをとおして知識や技能、考え方を獲得できるように工夫しています。 ▶本資料 I-2-③ ●例えば九九表をもとに乗法の範囲を広げたり、九九表に潜むきまりを見つけたりする 探究的な活動 を、2学年から6学年まで継続的に扱うなど、学年に応じた深め方があることのおもしろさを実感できるように工夫しています。 ▶2下p.54～55, 3上p.14～15, 4下p.14, 5年p.120～121, 6年p.89等
4. 算数の学習を、進んで生活や学習に活用しようとする態度を育てるように配慮しているか。	①学習したことを実生活等に活用する問題を、単元ごとに設けています。学習したらすぐに活用してみようとする態度を育てるよう配慮しているか。 ②複数の単元や領域にまたがる学習内容を総合的に活用する問題を設けています。これまでの学習内容が相互に結びつき、算数を使って実生活等の問題を解決できるよさを実感し、学び続ける意欲が高められるように工夫しています。	● 単元ごとの活用問題 として【学んだことを使おう】を設け、算数を活用しようとする態度を育成するように工夫しています。例えば、3下p.85では、乗法の学習の活用問題として、階段1段分の高さや段数から校舎の高さを求める問題を扱い、算数を実生活に活用するよさが感じられるようにするとともに、読解力・表現力を育てるようにしています。 ▶2上p.99, 3下p.85, 4上p.76, 5年p.214, 6年p.126等 ● 総合的な活用問題 として【算数を使って考えよう】を設け、筋道を立てて考え表現する力を育成するように工夫しています。例えば、5下p.228～229では、全国学力・学習状況調査のB問題もふまえ、複数の資料から情報を選択し、根拠を明確にしながらかし考をすすめ、それを数学的に表現する活動を扱い、算数を活用する力を育てるようにしています。 ▶2下p.86～87, 3下p.99～102, 4下p.118～122, 5年p.228～231, 6年p.176～180
5. 算数を学ぶ意欲を高めたり、学ぶことの意義や有用性を実感したりできるように配慮しているか。	③算数の学習を進めるうえで、既習事項とのつながりを繰り返し意識づけ、新たな問題の解決に既習事項を用いるよさを実感できるように工夫しています。 ④新学年の第1単元の前に、授業開きのための教材を用意し、算数の学習の進め方を学級で共有できるようにするとともに、算数の楽しさを味わい学習意欲が高められるように工夫しています。	●既習の知識・技能を振り返りながら学習が進められるように、単元の随所から巻末【学びの手引き】【学びのマップ】にリンクし、学びのつながりが意識づけられるように工夫しています。 ▶本資料 I-1-① ●前学年で使った考え方を振り返るコーナー【算数で使いたい考え方】を巻頭に設け、新学年においても、前学年で使った考え方を 使おうとする態度 を育てるように工夫しています。 ▶本資料 I-2-① ●授業開き教材では、多くの子どもたちが主体的に取り組めるオープンエンドの問題を用意し、「問題をつかむ」「自分で考える」「みんなで話し合う」「ふり返る」「広げて考える」という学習の進め方をとらえられるように工夫しています。教材や展開のおもしろさとともに、イラストやレイアウトにも配慮して、 新学年の算数学習への意欲を高める ようにしています。 ▶2上p.3～5, 3上p.3～5, 4上p.3～5, 5年p.3～5, 6年p.3～5
	⑤各単元のまとめには、学んだことよさや考え方を振り返る4コマ漫画を設け、単元や領域を貫く考え方をわかりやすく表現し、学習意欲が高められるように工夫しています。	●例えば計算単元では、「新しい計算は既習の計算をもとにして考える」という考え方が大切になります。これを4コマ漫画で表現し、加法、減法、乗法、除法の単元で繰り返し意識づけていくことで、「数と計算」領域を貫く考え方を 楽しく理解 できるように工夫しています。 ▶2年以降 各単元末
	⑥ほかにも、様々なコラムの中で、学習を広げる楽しさが感じられるように工夫しています。	●知識を広げるコラム【身のまわりの算数】【言葉の広場】【算数メモ】【算数ミニクイズ】【よくあるまちがい】を設けています。学習を広げたり、実生活とのかかわりに触れたりして、 知的好奇心 を高めるように工夫しています。 ▶2上p.94, 3上p.39, 4下p.8, 5年p.23, 6年p.25等



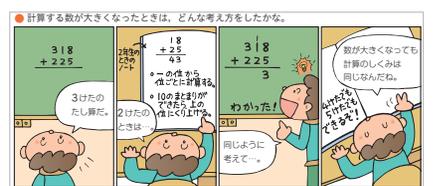
▲5年p.228～229



▲2上p.3～5 ココアはいくつ



▲2上p.42 ひき算



▲3上p.36 たし算とひき算

❖ 指導計画の作成や学習指導上の配慮、及び内容の取扱いへの配慮は適切になされているか。

観点	特色	具体的な事例
1. 継続的な指導や学年間の円滑な接続、幼小及び小中の連携に配慮しているか。	①1学年の算数入門期では、就学前の体験との関連を図るように配慮しています。	●例えば1年p.1-2では、「まちがいさがし」の活動で導入し、楽しみながら数や形にかかわる言葉話し始められるようにしています。また、1年p.18～19では、「学校たんけん」の活動を取り入れたり、1年p.24～25では時計の学習を1学期の早い時期に扱うようにしたりして、学校生活を円滑に始められるように工夫しています。
	②高学年では、中学校との接続に配慮し、既習事項を活用して主体的に学習を進めたり、発展的・統合的な考え方を伸ばしたりして、中学数学につながる学び方を身につけられるように工夫しています。	●高学年は学年1冊の合本にし、前学年までの学習内容をまとめた【学びのマップ】も掲載し、わからない箇所があれば自ら振り返って学習を進められるようにしています。 ▶本資料 I-1-① ●高学年の各単元末には、発展的・統合的な見方を育てるコラム【広がる算数】を設けています。例えば、6年p.15では「文字を使った式」の学習を広げて、2桁の整数を文字を使って表すことに触れています。6年p.115では「角柱と円柱の体積」の学習を広げて、身のまわりの缶が円柱形であることから、立体の表面積に着目させています。また、5年p.131では「わり算と分数」の学習後に、2学年から学習してきた分数の意味について振り返るようにしています。
2. 領域間の指導の関連が適切に図られているか。また、いくつかの領域の内容を関連づけて活用するなどの配慮をしているか。	①必要に応じて、異なる領域の学習内容を相互に結びつけ、理解が一層深められるように工夫しています。	●目次では、学習の系統を示し、他領域とのつながりもわかるようにしています。特に高学年では、単元の学習の中で必要な既習事項にリンクすることで、学習内容の関連性を意識して学習を進められるように工夫しています。 ▶本資料 I-1-① ●異なる領域の学習を結びつけ、相互に活用して解決する問題を取り上げ、理解が一層深められるように工夫しています。例えば4下p.14では、九九表を使って面積や分配法則についての理解を深めています。6年p.116～117では、分数の計算を使って割合や速さの問題を効率よく解決することを扱っています。
	②発表・話し合い、ノート記述などの表現活動を豊富に取り入れています。	●発表・話し合いの場面では、算数科のねらいに即した言語活動が行えるように工夫しています。また、数直線などの図を用いて考え表現する力を育てたり、ノートに書く力を高めたりすることにも配慮しています。 ▶本資料 I-2-③④⑤
3. 考えを表現し伝え合う学習活動を積極的に取り入れるなど、算数科の目標を実現する手立てとして、言語活動が充実されるように配慮しているか。	①数学的な考え方と言葉を関連づけ、言語活動の中で数学的な考え方を意識して用いることができるように工夫しています。	●学年の始めに【算数で使いたい考え方】のコーナーを設け、前学年の具体的な学習場面を振り返りながら、数学的な考え方につながる言葉を学級で共有できるようにしています。 ▶本資料 I-2-①
	②発表・話し合い、ノート記述などの表現活動を豊富に取り入れています。	●発表・話し合いの場面では、算数科のねらいに即した言語活動が行えるように工夫しています。また、数直線などの図を用いて考え表現する力を育てたり、ノートに書く力を高めたりすることにも配慮しています。 ▶本資料 I-2-③④⑤
4. 数量や図形についての豊かな感覚を育てるための配慮をしているか。また、筆算による計算技能の確実な習得や、その際に見積もりを適切に用いることなどに配慮しているか。	①数量や図形についての豊かな感覚を育てるために、作業的・体験的な活動の充実を図り、実感的な理解が得られるように工夫しています。	●教室の内外における作業的・体験的な活動の充実を図っています。 ▶本資料 I-3-①
	②計算技能の確実な習得のために、練習問題の充実を図るとともに、見積もりを生かして計算の見通しを立てたり、計算結果の確かめをしたりするよさを意識づけ、学習に活用していくように動機づけています。	●「毎時の学習」「単元のまとめ」「家庭学習」の各段階で、習熟を図るための練習問題を豊富に扱っています。 ▶本資料 I-1-② ●3下p.8では、乗法の筆算の学習の中で「見積もり」の用語を導入し、計算結果の確かめに見積もりを活用するように促しています。また、5年p.43では、小数の乗法計算の誤答例を示し、乗数と積の大きさの関係や、被乗数と乗数の桁数、計算結果の末位の数字に着目することで大きな誤りに気づける場合があることを取り上げています。

下の④から⑥は、 3.4×0.26 の計算をまちがえた答えです。

④ 7.084 ⑤ 0.8884 ⑥ 0.882

このように、積の大きさや積の小数部分のけた数、いちばん下の位の数字などに着目することで、答えの確かめをすることができます。

▲ 5年p.43 小数のかけ算

5. 道徳教育との関連について配慮しているか。	①自律的な学習態度や学習習慣が身につけられるように配慮しています。	●自学自習に使える練習問題のページ【ステップアップ算数】のとびらページでは、【家庭学習のヒント】を示し、自分で答え合わせをしたり授業を振り返ったりすることを促し、自律的な学習態度を形成して学習習慣が確立されるように工夫しています。 [▶2上p.117, 6年p.203等](#)
②自分の考えや友だちの考えのよさを認め合う場面を取り上げ、学び合いの場のよさが感じられるように工夫しています。	●友だちのノートを見合う活動を設け、「友だちのノートの書き方のいいところを見つけよう。」と促すなど、お互いのよさを認め合う心を育てるように工夫しています。 [▶本資料 I-2-⑤](#)	
6. 伝統や文化についての理解を深め、尊重する態度を育成するための配慮をしているか。	③家族や社会との関わりの大切さが感じられる素材を積極的に取り入れています。	●例えば4上p.98では、非常用持ち出し袋の中身について家族で話し合う場面を扱っています。3下p.27では、お世話になった方に夏休みのお礼の手紙を書く場面を素材として扱っています。2上p.76では、ボランティア活動を素材として扱っています。
④算数の学習の普遍性が感じられるように、教材の選定を工夫しています。	●2上p.117, 6年p.203など、【ステップアップ算数】のとびらページでは、昭和10年代の算数教科書（緑表紙教科書）を紹介しています。また、4下p.61では「つるかめ算」、5年p.227では『塵劫記』の「油分け」の問題、6年p.32では「紋切り遊び」などを紹介しています。	
	⑤地域の歴史や文化の中に、算数を活用した事例があることを紹介しています。	●3上p.64では日本橋（東京）にある里程標を紹介しています。また、6年p.144では円筒分水について取り上げ、比を活用して、川の水を3つの村に公平に分配した話を紹介しています。

II 指導計画と内容の取扱いへの配慮

II 指導計画と内容の取扱いへの配慮

観点	特色	具体的な事例
7. 社会の変化に対応する能力及び態度を育成するための配慮をしているか。	<p>①安全に行動する態度が養われるように、教材選定を工夫しています。</p> <p>②環境保全に寄与する態度が育てられるように、教材選定を工夫しています。</p> <p>③国際社会と主体的に関わっていく態度が養われるように、教材選定を工夫しています。</p> <p>④将来の職業について関心が高められるように、教材選定を工夫しています。</p>	<p>●防災教育との関連を図り、3上p.42～43では「時刻と時間」の学習を生かして消防訓練を行う場面を扱っています。また、4上p.98では「がい数を使った計算」の学習を生かして、非常用持ち出し袋の中身について家族で話し合う場面を扱っています。</p> <p>●3上p.66では交通安全について考える場面や、4上p.116では学校で起こるけがについて考える場面を扱っています。</p>
8. 他教科及び学校の教育活動全体との関連について配慮しているか。	<p>①他教科や総合的な学習の時間、外国語活動、特別活動等との関連を図るように、教材選定を工夫しています。</p>	<p>●例えば5年p.168～169では、日本のエネルギー消費について考える活動をととして、節電への意識を高めています。また、2上p.99や5年p.117では節水について考える場面を扱っています。</p> <p>●例えば6年p.31では、ミラノ大聖堂の対称性と廬山寺の非対称性を対比し、西洋と東洋のそれぞれの美意識に触れる話題を紹介しています。また、6年p.199では、東京とロサンゼルスの時差について考える活動を扱っています。</p>
9. コンピュータ等の効果的な活用を促すように配慮しているか。	<p>①情報収集やシミュレーションなどにおいて、ICTを活用した学習活動を取り上げています。</p>	<p>●日本が世界に誇る最先端の科学技術を紹介し、算数の有用性を感じられるようにしています。宇宙開発やナノテクノロジー、スーパーコンピュータなど、今の小学生たちが未来を担っていくであろう研究・開発の話題に触れることで、自分の将来の職業を考えるきっかけとなるように工夫しています。</p> <p>➡3上下裏表紙裏, 4上下裏表紙裏, 5年裏表紙裏, 6年裏表紙裏</p> <p>●例えば3上p.38～40では「時刻と時間」を学習する素材として町探検の活動を取り上げたり、4上p.48では「折れ線グラフ」の学習素材としてヘチマの草丈調べを取り上げたり、6年p.28では「対称な図形」を探す活動に関連してアルファベットに着目させたりするなど、他教科等との関連を図るように工夫しています。</p> <p>●例えば3上p.75では、パソコンを使って1目盛りの変えた棒グラフについて考察する活動を扱っています。また、4上p.61では、インターネットなどを使って概数を見つける活動を扱っています。</p>

5 5 家庭での防災準備

かづやさんの家では、災害に備えて「非常用持ち出し袋」を用意しようと考えています。家族4人で必要になる品物を考えて、下の表を作りました。

品物	ねだん	数量	品物	ねだん	数量
非常食(1食中)	285円	4	茶	370円	1
飲料水(500mL)	105円	4	筆記用具	525円	1
洗面用品	1280円	1	マッパ	220円	1
ビニール袋	196円	1	下着	490円	4
かばん	1080円	1	ろうそく	330円	1

▲ 4上p.98 がい数を使った計算

❖ 内容の程度は、子どもの発達段階に配慮した適切なものになっているか。

観点	特色	具体的な事例
1. 本文内容、練習問題の程度は適切であるか。	<p>①本文内容は基礎的・基本的な内容の理解に重点を置き、発達段階に即して無理なく学習が進められるように配慮しています。</p> <p>②練習問題は、基礎的・基本的な問題を重点的に扱うとともに、理解の程度に応じて選択的に取り組めるように工夫しています。</p>	<p>●学習のまとめりに「課題→ステップ→繰り返し→まとめ→たしかめ・練習」という展開で構成しています。子どもの目線で学習のねらいや振り返りを表現する【はてな?】と【なるほど!】のふきだしや、解決の手がかりを示すふきだしを設けるなど、わかりやすく学びやすい構成を工夫しています。</p> <p>➡本資料 I-2-②</p> <p>●練習問題は、毎時の学習の定着・習熟に必要な内容で構成しています。計算練習では基本的な型を色分けし、最低限取り組む問題を明確にすることで、進度の遅い子どもも取り組みやすくしています。また、巻末【ステップアップ算数】は、【きほんの問題】と【レベルアップ問題】に分けて構成し、子どもの理解の程度に応じて習熟を図れるようにしています。</p> <p>➡本資料 I-1-②</p>
2. 個に応じた学習への取り組みがなされているか。また、少人数指導においても扱いやすい構成になっているか。	<p>①習熟度に応じた学習指導がしやすいように工夫しています。</p>	<p>●単元の導入では既習事項をスパイラルに重ね合わせ、新しい学習との差異に着目しやすくしています。また、問題解決に必要な知識・技能等の振り返りページを設けることで、子どもの習熟度に応じた支援ができるようにしています。</p> <p>➡本資料 I-1-①</p> <p>●毎時の練習問題から巻末【ステップアップ算数】の【きほんの問題】へのリンクを示すことで、習熟度に応じて練習問題の量を調整できるように工夫しています。</p> <p>➡本資料 I-1-②</p> <p>●単元のまとめでは、基礎基本の問題に加え、【ジャンプ】問題も設けて、学習を早く終えた子どもが取り組めるようにしています。更に、【ステップアップ算数】の【レベルアップ問題】へもリンクし、上位層の子どもの学習活動の充実にも配慮しています。</p> <p>➡本資料 I-1-②</p> <p>●単元間に、復習ページ【学習を振り返ろう】をはさみ、適宜、理解を確認できるようにしています。例えば3下p.76や5年p.31では、次時から始まる単元で必要となる計算技能の反復練習をする内容を扱い、習熟度別にコース分けする際にも利用しやすいように工夫しています。</p>
	<p>②「発展的な学習内容」や、応用・活用問題を豊富に扱っています。</p>	<p>●理解を深めるために有効な場面では、学習指導要領の範囲外の内容も扱っています。例えば5年p.100では、四角形の包摂関係を扱い、学習を深められるようにしています。</p> <p>➡1年p.141, 2上p.62, 3下p.25～26, 4上p.18～19, 5年p.84, 6年p.109等</p> <p>●ほかにも、基礎的・基本的な内容とは区別して、応用・活用問題を豊富に扱い、学びを広げたり深めたりする楽しさを十分に味わえるように工夫しています。</p> <p>➡本資料 I-4-①②</p>
	<p>③特別支援教育に配慮するとともに、だれにとっても学びやすい取り組みを工夫しています。</p>	<p>●算数用具を用いた作図のしかたについて、詳しい手順やポイントを連続写真で掲載し、指導学年以外でも繰り返し振り返れるようにしています。</p> <p>➡本資料 I-1-①</p> <p>●全学年において、読みやすい改行に配慮しています。特に、低学年の文章題では、条件文と求答事項を短文で区切るなど、文章の長さや語彙に細心の配慮をしています。</p> <p>●配色を工夫したり図版に色名を付記したりするなど、カラーユニバーサルデザインにも配慮しています。</p> <p>➡1年p.27, 3下p.44等</p> <p>●余白を生かし、内容のまとめりや目線の移動の順序がとらえやすいレイアウトや、落ち着いて学べる色調などに配慮し、だれにとっても学びやすい紙面づくりを工夫しています。</p>

III 内容の程度

❖ 組織・配列は、学習が有効に進められるように配慮されているか。

観点	特色	具体的な事例	
IV 組織・配列	1. 内容は系統的・発展的に組織・配列されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①系統をふまえ、最適な学習効果が得られる単元配列を工夫するとともに、他教科等の学習時期にも配慮しています。 ②個々の単元において、学習の系統がわかりやすく、習得と活用のサイクルを意識して学習できるように工夫しています。 ③図解表現は、発達段階をふまえて系統的に示し、「思考の道具」「表現の道具」として活用できるように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●学習を進めるうえで、既習事項を活用したり、学習したことを統合的に理解したりできるように配列を工夫しています。また、学習の系統が、目次からわかるように工夫しています。 ●例えば計算単元の間に図形単元をはさむなど、学習負担を軽減するようにしています。また、習熟のために反復練習が必要な単元は、できるだけ早い時期に扱うようにしています。 ●例えば棒グラフや折れ線グラフ、概数など、他教科等でも活用する学習は指導時期を早めるように工夫しています。また、素材においても、他教科等との関連を図っています。
	2. 基礎的な能力が習熟・維持されるように配慮しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①適切な繰り返し学習の機会を設け、基礎的な能力が習熟・維持されるように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●単元の導入では既習事項をスパイラルに扱って新しい学習に活用していき、発展的に考えながら学習を進め、単元の終わりには実生活等に活用する、という流れで構成しています。また、単元内の各所で既習事項との結びつきを示唆するふきだしを設けるとともに、高学年では、【学びのマップ】を設けて既習事項を繰り返し活用できるようにしています。 ▶本資料 I-1-① ●例えば、数を分解して計算のしかたを考える際には、一貫してサクランボ図を用いるとともに、その根拠として低学年ではブロック図を用い、学年が上がるに従って段階的に抽象化していくようにしています。 ▶1年p.99, 2上p.18, 3上p.24等 ●テープ図(線分図)や数直線の指導の充実を図っています。 ▶本資料 I-2-④
			<ul style="list-style-type: none"> ●単元の間に復習ページ【学習をふり返ろう】をはさみ、また、学年末には【学年のまとめ】を設け、基礎的・基本的な知識・技能が維持されるようにしています。 ●家庭学習や習熟度に応じた学習に使えるページ【ステップアップ算数】を設け、個々の理解の程度に応じて学力が習熟、維持、向上されるようにしています。 ▶本資料 I-1-②

❖ 分量や時間は無理なく学習が進められるように配慮されているか。

観点	特色	具体的な事例	
V 分量・時間	1. 各学年の内容の分量は適切に配分されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①基礎基本の内容と、選択的に扱う内容の分けを明確にし、指導時間数の中で確実な習得を図れるように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●各学年17単元程度で構成しています。各学年とも予備時間を設定し、余裕をもって学習指導にあたれるように配慮しています。指導時間数の中では、基礎的・基本的な内容を丁寧に扱い、学習内容の確実な理解が図れるように配慮するとともに、補充的学習や応用・発展的学習に用いることができる問題やコラムも扱っています。
	2. 練習問題は習熟に十分な分量になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①単元の学習や家庭学習において、知識・技能の定着のために十分な分量の問題を用意しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●1学年では、単元と単元の間に細かく【たしかめもんだい】を設け、発達段階に適した反復練習が行えるように配慮しています。2学年以降では、単元内で適切な分量の練習問題を扱うとともに、巻末に【ステップアップ算数】を設け、家庭学習にも取り組みながら自律的な学習として練習問題に取り組めるようにしています。 ▶本資料 I-1-②

❖ 表記・表現は国語科等との関連を図りながら、理解しやすいように配慮されているか。

観点	特色	具体的な事例	
VI 表記・表現	1. 文章表現は平易で理解しやすいように配慮しているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①文章表現は平易で簡潔であるとともに、子どもの発達段階を考慮して理解しやすいように配慮しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●文章表現は、正確、簡潔、かつ子どもに誤解のないわかりやすい表現を用いています。 ●全学年において、読みやすい改行に配慮しています。 ▶本資料 III-2-③
		<ul style="list-style-type: none"> ②漢字・仮名遣いは、不自然な交ぜ書きを避け、国語科との関連にも配慮しながら、必要に応じて上学年の配当漢字もふりがなを用いて使用しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●不自然な交ぜ書きを避け、ふりがなを用いながら早い段階から漢字表記のまま子どもの目に触れさせるように配慮しています。特に算数用語については、「筆算(ひっ算)」や「展開図(てん開図)」などの漢字表記を上学年で学び直すのではなく、当該の学年の学習の中で触れさせていくように配慮しています。
		<ul style="list-style-type: none"> ③算数用語について、正確かつ簡潔な表現を用いて定義するとともに、学びをより豊かにする話題を紹介して理解が深められるように工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●索引を設け、既出用語の意味を確認して正しく用いることができるように工夫しています。また、例えば2上p.52で「直線」を学習する際、「曲線」についても触れることで意味をはっきりさせたり、4下p.32で「垂直」を学習する際、「直角」との意味の違いを明確にしたりするなどの工夫をしています。5年p.134では「内角」の用語を、6年p.9では「未知数」の用語を取り上げるなどして、語彙を広げられるように工夫しています。

❖ イラスト・写真などは子どもたちに親しみやすく、問題解決を促すように工夫されているか。

観点	特色	具体的な事例	
VII イラスト・写真	1. イラスト・写真は、学習を進めるうえで効果的なものになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①イラストや写真は、子どもの学習活動を効果的に進める目的に照らして適切なものを厳選しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●落ち着いたタッチのイラストを用い、学習に集中できるように配慮するとともに、子どもの想像力にはたらきかけ、内容の理解に資するものになるように工夫しています。 ●作業的・体験的な活動の場面では写真を用い、活動への動機づけをしています。また、作図のしかたなどは、手順やポイントがわかりやすいように連続写真を用いて表現しています。

❖ 学習効果を高めるための体裁上の工夫がなされているか。

観点	特色	具体的な事例	
VIII 体裁	1. 学習効果を高めるための体裁上の工夫がなされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもが主体的に学習を進められるように体裁を工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●既習事項が増える高学年は学年1冊の合本にし、既習事項を活用した主体的な学習ができるように体裁を工夫しています。 ▶本資料 I-1-① ●ページめくりや折り込み、単元名を隠す手法などを使って、見通しや自力解決の段階では単元名や解決方法が見えないように工夫しています。 ▶3上p.44～49, 5年p.32～34等

❖ 印刷は見やすくなっているか、また、製本は堅ろうになっているか。

観点	特色	具体的な事例	
IX 印刷・造本	1. 文字やイラスト、写真などの印刷は鮮明で、製本は堅ろうになっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ①子どもの学びやすさに配慮した印刷や造本を工夫しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●あじろ綴製本を採用し、紙面をワイドに使えるようにするとともに、製本は堅ろうで長期の使用にも耐えられるように配慮しています。印刷は鮮明で、落ち着いて学習できる色彩に配慮しています。また、紙の強度を維持しつつ、できるだけ軽量な紙を使用しています。身体の発達にも配慮し、2～4学年は1冊あたりのページ数が多くなりすぎないように分冊にしています。 ●環境にやさしい再生紙と植物油インキを使用しています。